

大人の 社会 見学

鹿屋の地で育まれた
名品・名産・名所などの
よかもんをご紹介します

双子 塚



輝北町諏訪原双子塚



ナビゲーター

鹿屋市

文化財保護審議会委員

伊地知 一郎さん



輝北町諏訪原の八重山台地は、「春山の牧」と言われ、古くから牧場の地であったと伝えられています。

今では田畑が広がる台地となっていますが、その中を通る県道を見ると、道路をはさんで左右に1つずつ古墳のような丘があるのに気が付きます。これが双子塚です。

今回は鹿屋市文化財保護審議会委員の伊地知 一郎さんに紹介いただきました。

「昔から地域住民に親しまれ

ニ移リ當城ヲ治所トス敷根長
○雙子塚 平野ノ中ニ丸キ岡
十一丈許リ周廻二町三十間兩
大人彌五郎ト云シ者草奈ニ土
ストイヘリ國府郷拍子橋ノ條
十八之巻 大隅國

『薩隅日地理纂考』(明治4年)



輝北町諏訪原の八重山台地は、古墳といふ説もありますが、詳しいことは分かっていません。

しかし面白いことに、県内各地に残る『弥五郎どん伝説』が、ここ双子塚にも残っています。

巨人弥五郎がモッコ(土石運搬に用いる網袋)に土を入れて運んでいたところ、担ぎ棒が折れてしまい、その際、土がこぼれてできたものが双子塚だという伝説です。不思議に並ぶ二つの丘を見て、人々が思いを馳せたのでしよう。

戦時中まで大塚には樹齢

200年前後と言われる一本の松の老木がそびえていたそうです。それは遠くからでも確認でき、通行人の目印になっていたようです。

大塚は3分の2の高さまで岩盤で、その上に土が乗っている構造になっていますが、頂上で足踏みをする空洞があるような音がするため、『何か埋蔵されているのでは』とも言われます。実際、塚の周辺からは古代の土器の破片も見つかっており、また小塚からも古い骨壺が出土したと言われています。

双子塚は霧島連山や高隈山、国見山系を一望できる見晴らしの良い場所なので、はるか昔、古代人の墓所として利用されたのかも知れません。

現在、双子塚は地域住民によって管理され、霊園が建てられたり、ツツジなどが植ええられたりしています。」